

令和7年度学校評価 最終報告（今後の取組と次年度に向けて）

重点目標

授 業 づ く り

- ・ よりよい教育課程の編成を進め、各教科のねらいを踏まえた授業づくりを行う。
- ・ 障害特性の理解を深め、卒業後の「いきジョイの実現」を見据えた小学部・中学部・高等部とつながりのある指導・支援を行う。
- ・ 児童生徒にとって分かりやすい環境設定やポジティブな支援を行う。

安全で安心できる 環 境 づ く り

- ・ お互いの人権を尊重し合える環境づくりを進める。
- ・ 災害等に備える視点と突発的な事態に対応する視点で一人一人が危機管理意識をもち、組織的な対応力を高める。
- ・ 積極的な情報発信・情報共有を進め、保護者、関係機関、地域との連携を深める。

働 き 方 の 改 善

- ・ 職員一人一人の生活や働き方を認め、お互いに理解し支え合う職場づくりを進める。
- ・ 児童生徒及び職員の「いきジョイの実現」に向けて、業務の更なる効率化を図り、働き方の改善を加速化する。

各部の取組

項目	具体的方策	今後の取組と次年度に向けて
授 業 づ く	<p><小学部> 小学部6年間で学ぶべきことが学べる教育課程を目指し、年間指導計画等を見直し、授業実践を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習）の中で、教科「生活」の内容を学ぶことができているのか学年会等で確認した。その中で、教科を意識して新たな単元を計画し実施する学年もあった。 ・ 教科の目標を共通理解しやすいように、現行の年間指導計画に追記する形での様式を検討していく。
	<p><中学部> 「中学部として押さえる指導のポイント」を検討・共通理解を図る。また、その実践を通して、中学部の教育課程や日課表の課題を明確化し、改善に向けて意見をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部全体で「中学部として押さえる指導のポイント」について共有し、運用した。実践をする中で、『着替え・清掃・排せつに関してマニュアルを作成して共通理解をもって指導したい』という意見が多く挙がった。それぞれのマニュアルの作成に取組み、項目ごとにA4用紙1枚にまとめた。作成したマニュアルを共有・運用し、必要があれば今後、加筆修正を行い、活用につなげていきたいと考えている。 ・ 日課表については生徒の実態や指導の実際を考慮して変更が可能か検討をした。生徒に分かりやすいことや学校全体とのバランス、職員の補欠対応など様々な視点で検討を行った結果「現行のまま」というのが今年度の結論となった。しかし、現行の1.4.6限の扱いについては、学年内で時間の使い方や職員の配置などの調整が必要な部分があり、引き続き検討や共通理解を図る必要がある。

I 授業づくり	<p><高等部> よりよい学びにつながるよう、教育課程の改善を図り、令和8年度以降に向けた教育課程の再編成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の反省をもとに改善案を作成した。改善案を検討することで新たな課題が出てきたため、再度成果や課題を洗い出していくこととした。出された課題等をもとに案を考える。 ・次年度に向けて、よりよい学びにつながる教育課程を目指し、試行に向けて検討を続けていく。
	<p><施設内学級> 個々の特性を理解し、活動内容の充実を図り、個に合わせた授業を実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな刺激の体感として、ゴムひもで引っ張られる感覚や車いすで凸凹道の振動や揺れを感じたり、ボールプール遊びやどんぐりのプットイン遊びなどで刺激を感じたりすることに取り組んだ。明確な快・不快の表出はないが、覚醒して取り組んだり、安定した気持ちで取り組んだりすることが増えた。匂いをかぐ活動では、反応を示す様子が見られた。 ・次年度以降もさまざまな刺激の体感や教師と一緒にやる活動経験の中で、快・不快の気持ちの表出や期待感・達成感などを感じられるように授業づくりをしていきたい。
	<p><教務部> 個別の指導計画の有効な活用方法を再度確認し、教職員のカリキュラム・マネジメントの意識向上を進め、授業づくりが行えるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に3日間「個別の指導計画書き方相談会」を実施した。 ・参加者は新転任者が90%ということもあり、年度当初に新転任者対象の教務関係書き方講習会を行っているが、今回のように夏季に自由参加型の相談会を行っていくことで、どのような視点で個別の指導計画の作成を進めていくのかが再度確認できると考えられる。 ・日常的に職員同士で児童生徒の学習の取組や評価について話し合ったり相談しあったりできる環境を少しずつ整えられるように考えていきたい。
	<p><研修部> 教員が部間のつながりを意識しながら、児童生徒一人一人の指導や支援について考え、実践できるようにサポートする。</p> <p>いきジョイ（校内研究）に全校で取り組み、「みよしっこの障害特性」「根拠と効果のある指導・支援」を学び、専門性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「部を越えた自由な授業参観」を今年度も2回設定した。通常の業務と合わせてとなるが、授業を参観したいという声も聞こえ、サンクスカードの記入も多く見られた。気軽に参観できるよい機会となった。また、外部講師による研修会を実施した。今後も全校でおすすめの教材や授業を気軽に見合う雰囲気づくりをしたり、専門性の高い教員や外部講師と連携して研修会を実施したりするなど、教員の専門性の向上を図っていきたい。 ・児童生徒の障害の特性を改めて考え、それぞれの特性に応じた指導・支援について学び、考えるワークショップを8回実施した。各学年特定の児童生徒を決め、指導・支援について意見を出し合ったり、構造化、視覚支援など新たな視点で支援について検討したり、気づきあうことができた。次年度のいきジョイでは、今年度の気づきや指導と支援を実践し、多くの児童生徒の指導・支援方法につなげていけるような取組を考えていきたい。
	<p><保健体育部> 児童生徒の健康課題に対し、適切な支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善や体重管理を行うため、体重の変化の記録を付けたり、食べ物を書き出したりして、食生活の見直しを行った。長期休業中も生活習慣を意識して過ごせるように、体重や食べたおやつ、運動を記録できる表を作成した。体重を意識することで自分の体に興味をもて、運動や食事などの生活習慣の改善につながりやすくなる姿が見られるようになった。健康課題は一人一人異なるため実態を的確に把握し、今後も個の目標に応じた支援を続けていきたい。

1 授業づくり	<p><自立活動部> 自立活動に関する理解を深めることで、児童生徒への指導・支援の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門家活用事業における自立活動相談や豊田市こども発達センターとの相談会を実施し、相談内容や相談結果を自立活動だよりやTeamsで報告するようにした。自立活動の授業実践の紹介や日々の支援の参考になるような具体的な支援方法などを伝えることができた。 S-M 社会生活能力検査を分かりやすく活用するために、S-M チュートリアル動画やS-M お助けブックの作成、データの一元化を行った。アンケート結果より、「活用しやすかった」「分かりやすくなった」という意見が挙げられた。一方で、「活用できていない」という意見もあったため、引き続き有意義な検査の選定と職員への負担軽減を含めたサポートをしていきたい。また、次年度から高等部A・B教育課程の生徒を対象に導入するアセスメントを実施するにあたり、アセスメントの大切さや活用方法の周知を図っていきたい。 児童生徒にとって分かりやすい環境設定の視点で、構造化について共に考える研修をいきジョイ（校内研究）の中で実施した。研修を通して、構造化への理解を深めるとともに、児童生徒が分かって動ける環境づくりの大切さについて学ぶことができた。
	<p><教育支援部> 関係機関との連携を図ることで、職員一人一人が、障害特性を基礎から学んで理解したり、多様な支援方法に関する知識を得たりして児童生徒への支援に生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発達センターとの相談会、豊田市強度行動障がい派遣事業、スクールカウンセラーなどを活用した。校内アンケートでは、「見識の広がり」「心強い」といった職員の声が複数あり、外部機関との連携の意義を感じることができた。 個の学びを学校全体の力にできるように、発達センターとの相談会や強度行動障がい支援の研修会及び個別支援の報告など、Teamsで全体に発信することに努めた。 いきジョイでは、強度行動障がい派遣事業の研修会を行った他、「特性の理解」「チームでの支援」についての実践研修を行った。研修後はいろいろな視点での感想が聞かれ、職員それぞれが自分事として支援を振り返るきっかけを作ることができたと感じる。
2 安全で安心できる環境づくり	<p><小学部> 児童が安心して笑顔で過ごし、成長できるように、主体的に行動ができる環境をつくったり、成長につながるような言葉がけや関わり方を考えて実践したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導・支援に関わる全ての職員が温かな言葉がけと柔らかな支援を心掛けることができるように情報発信し、共有を図った。 各学級において、視覚支援や構造化を踏まえて、児童が分かって動ける環境づくりを行うことが浸透してきている。 学年会で、児童の人権を尊重し成長につながる適切な言葉がけや関わり方について振り返る機会を設定した。教員の人権尊重への意識は高まってきている。教員の人権を尊重した指導や支援を支えることができるような職場環境づくりが今後の課題である。
	<p><中学部> 生徒の支援体制を整え、情報共有をしながら指導・支援にあたる。また、生徒の健康や安全に対する意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の指導・支援について、本人の思いや保護者の願いに応じてケース会議や支援会議を行った。課題や問題の解消・解決に向かうケースもあった。その一方で状況が変わらなかつたり、より複雑な問題が生じたりするケースもあった。学年や部全体で情報を共有し、アイデアを出し合う体制が定着してきており、担任が一人で抱え込む状況は少なくなったと感じる。 健康や安全に関する学習を計画し、授業や行事に関連付けて実施した。交通安全や水辺の安全、防災についての学習に取り組んだ。避難訓練の際には自ら身を守る姿勢をとる生徒が増えるなど、学習したことを日常生活に生かせる場面が多く見られた。

2 安全で安心できる環境づくり	<p><高等部> 生徒が安心して学校や地域で過ごせるよう、関係機関との連携を深め速やかな対応に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や部会において、継続して情報の共有をした。 ・必要に応じて、相談支援員や市町の担当者、児童相談所などの機関と連携を図り、速やかな対応をした。 ・次年度も生徒が安心して生活できるよう、教師の意識を更に高め、速やかな対応に努めていく。
	<p><教育情報部> 学校の取組を発信するなど、ホームページの充実を図り、安心できる学校のイメージを高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事の担当者と協力して、学校生活を含め、更新を毎週行うことができた。保護者から、更新を楽しみにしているという声も届いた。 ・ホームページの編集体制を充実させたことにより、更新の負担を減らすことができた。 ・教員の私物カメラの代替として、学校所有のカメラを整備し、安全安心な教育活動の環境を整えた。
	<p><生活指導部> 訓練や研修を実施し、災害や突発的な出来事の時、どう判断し、どう行動すべきか、個々の対応力と学校組織としての対応力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい形での引き渡し訓練や、より実質的な不審者対応避難訓練など、各種の訓練を実施することができた。 ・訓練を通して実際の動きをすることで、児童生徒、教員とも、どう考え、どう判断し、どう行動すべきか確認することができた。 ・取り組みの反省を活かして、緊急時の対応のあり方について、より本校にあった形にしていきたい。
	<p><進路指導部> 教員や保護者に向けて、進路に関する発達段階に応じた情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年保護者対象の「進路説明会」では、作業学習などの参観を通して、中学部の生活に対する保護者の見識を深めることができた。 ・中学部進路情報連絡会は、授業参観日に合わせて行ったため、参加者の学年に偏りがみられた。第2回進路情報連絡会では、本校高等部卒業生の保護者を招き、在学中に取り組むべきことや卒業後の生活について講演していただいた。事業所のパンフレットを取り寄せ、見学に行く保護者が増えてきたことから、卒業後の生活を意識する保護者が増えたように感じる。 ・夏季選択研修やチームズを通じて、進路の基礎的な知識を先生方にお伝えした。卒業後の生活や求められる力など、聞くだけでは想像しにくいところがあるため、今後も内容を工夫しながら繰り返し情報提供をしていきたい。 ・相談支援専門員とのコミュニケーションを必要に応じて積極的にとることで関係が深まり、福祉に関する情報を得やすくなった。 ・「進路に関する調査」では、保護者からの質問に対し、個別に回答することができた。 ・「進路だより」に、保護者からの進路に関する疑問への回答を学部別に掲載し、周知を図ることができた。
	<p><保健体育部> 安全で安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の外科処置の記録を集約・分析することで、校内で発生しやすいけがの種類や発生頻度を客観的に把握することができた。さらに、事故の発生箇所や発生状況を集約することで、事故の起きやすい場所や場面を特定することができた。集約したデータは職員会議を通して全職員に周知したり、転倒の危険がある山コースについては、定期的に砂利を取り除いたり、土を入れ凹凸をなくしたりするなど整地した。今後もこれらの取組を行いながら、学校全体で安全意識を高め、事故やけがが防止へとつながれるとよい。
<p><教育支援部> ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との共同体制を構築したり、地域の学校内でのサポート力向上の支援を行ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教員対象の研修会では、小・中学校及び高等学校の教員を招き、愛着障害についての講義の他、冰山モデルや応用行動分析などを通して子どもたちを理解し支援を考えるワークショップを行った。参加者アンケートでは、「大変良い」「良い」の回答が得られ、「学びを学校に持ち帰り共有したい」といった感想も複数あった。今後も情報発信とともに参加型ワークを実施し、地域の学校内でのサポート力向上につなげていきたい。 	

3 働き方の改革	<p><総務部> 職員室内の整理整頓を行い、業務の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員室内のロッカー等、職員が共同で使用する物の整理整頓を行った。棚や掲示板の割り当てを明確にした。今後、連絡が明確に伝わるようにしたい。
	<p><教育情報部> ICTを活用して業務の省力化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に教職員向けのICT講習会を行い、外部講師やリモートを活用することで、7つの講習で150名以上が参加した。 生成AIについての講習も行き、イラスト生成などの活用方法を共有できた。
	<p><自立活動部> 校務内の業務の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各業務内の担当者の役割分担を明確にし、各々が業務に見通しをもって円滑に進められるように取り組んできた。 引き続き、Teams等を活用して校務全体や複数の担当者間で互いに業務の依頼や報告をしたり、柔軟に業務を分担し合ったりして業務の効率化を図っていきたい。
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>		<ul style="list-style-type: none"> よりよい教育課程の編成を進め、分かりやすい環境設定やポジティブな支援を行う。 お互いの人権を尊重しつつ、一人一人が自分事として考えた安全で安心な環境づくりと支援を行う。 支え合う職場づくりを進め、職員の働き方の改善を加速化する。
<p>総合評価</p>		<ol style="list-style-type: none"> 授業づくり <ul style="list-style-type: none"> 各教科のねらいや部として押さえるポイントを明確にして授業実践を行うことができた。 外部講師による研修会や校内選択研修などを通して児童生徒への支援法を学び、授業づくりに取り組むことができた。 安全で安心できる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 人権に関する研修会を行い各部でも話し合うことで、児童生徒や教職員の関わり方への意識を深めた。 防災や緊急時の対応による訓練を実施し、一人一人が災害時の取るべき行動を確認することができた。 働き方の改革 <ul style="list-style-type: none"> ICT研修会を実施し、効率よく教材作成や資料作りができる方法を学ぶことができた。 各校務分掌ごとに業務内容を話し合ったり、Teamsを活用したりすることで効率よく業務を進めることができた。